

発行日 平成27年8月 第90号

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
ございます。

平成27年3月より、秋田道沿線地域医療連携協議会へ市立秋田総合病院が加わり、脳卒中パスによる連携が拡大してきています。今後も関連病院との協議を重ね、円滑な治療・リハビリテーションの継続に努めていきたいと思っております。

今回は、協議会の内容の一部をご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

秋田道沿線地域医療連携協議会の報告

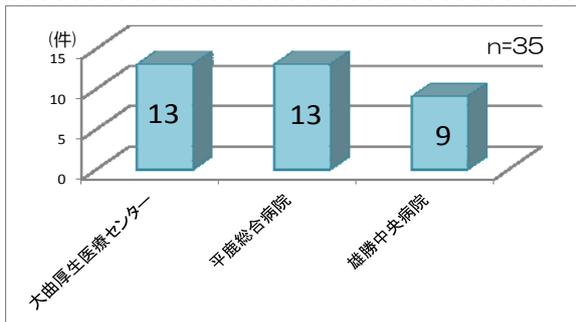
日時：平成27年7月31日（金）16:00～18:00

場所：平鹿総合病院 第一・二・三会議室

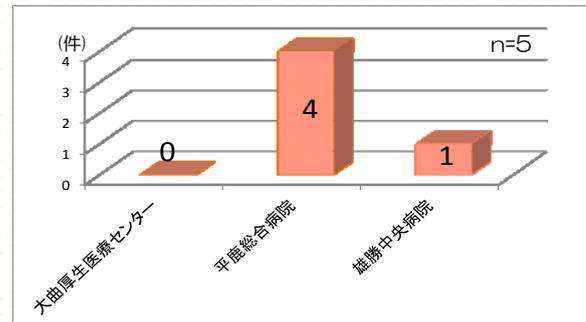
参加者：秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、大曲厚生医療センター、雄勝中央病院、羽後町立羽後病院、西和賀町立さわうち病院、市立秋田総合病院、平鹿総合病院 関係者 計33名

<報告事項>

1. 平成27年4月1日～6月30日までの脳卒中地域連携パスの使用実績



リハセンへの転院件数



羽後病院への転院件数

<意見交換の内容>

1. 急性期病院の「地域連携診療計画管理料」の算定状況について

施設基準を取得している急性期病院は、大曲厚生医療センター、平鹿総合病院の2病院。双方とも、算定件数が、転院患者の半数以下となっている。7日以内に個別診療計画を作成し、本人もしくは家族の同意を得ることが困難な状況がある。

今後、どのようにして件数を増やすか課題である。

2. 維持期の医療機関や老人保健施設等との連携の強化について

維持期を担う開業医の先生方には、これまで研修会へ参加していただいていた。しかし、協議会で意見をいただくことがなかった。今後、連携強化のため、会員の先生方への会議内容のメール配信や、会議の案内などの取り組みが必要である。また、会員以外の開業医への紹介を増やし、協力体制を強化していく必要がある。

リハセンからのお願い！

転院時、**診療情報提供書の処方内容と残薬の内容が一致せず**、地域医療連携室を通して再度情報提供を依頼しているケースが増えている。**転院前に確認**してほしい。